北海道教育大学学術リポジトリ
Hokkaido University of Education Repository
国立大学法人 北海道教育大学
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

教育と子ども福祉の探究

メタデータ	言語:
	出版者:
	公開日: 2023-08-31
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 稲井, 智義
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.32150/0002000016

北海道教育大学紀要（教育臨床研究編）第74巻　第１号　　令和５年７月
Journal of Hokkaido University of Education（Clinical Research in Education）Vol. 74, No.1　　July, 2023

教育と子ども福祉の探究

稲　井　智　義

北海道教育大学旭川校幼児教育学研究室

Inquiry of Education and Child Welfare

INAI Tomoyoshi

Department of Early Childhood Education, Asahikawa Campus, Hokkaido University of Education

概　要

本稿は大学模擬講義を検討して「教育と子ども福祉の探究」の意義を明らかにした。いま，問題を見つける探究が注目されている。学校の問題を描いた小説が朝井リョウ『世界地図の下書き』である。児童養護施設で暮らす小学生が他の同級生から「ユーレイ」扱いされる場面がある。このように子どもが「忘れられている」状況が2010年代の日本の学校に見られた。大阪市立大空小学校はこうした状況と異なり,「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」ことを「学校の理念」に掲げている。施設で暮らすある卒業生は「大空の人」に信頼を寄せていた。最後に，文学が描く可能世界と虚構世界を通じてとらえ直された現実の学校の中で，子ども福祉とともに複数の現実可能性を探ることを提案した。本講義は多くの生徒にこの主題と教育学に関心を抱かせ，探究と勉強に対する示唆を与えた。探究する教師を福祉と文学を行き来しながら育てることは，今後の課題である。

１．本稿の目的と構成，大学模擬講義の状況

⑴　本稿の目的

本稿の目的は，私が2021年７月に北海道旭川西高等学校で行った大学模擬講義の実践と生徒コメントの検討を通じて,「教育と子ども福祉の探究」の意義と教師養成の課題を明らかにすることである。

教育学者の小玉重夫は，2020年７月29日（水）に行われたお茶の水女子大学附属小学校オンライン校内講演会の記録で,「探究とは何か」について次のように述べる。

探究とは「考える」こと

そこで「探究」とは何なのかということで，今日の話ではそれを軌道から逸れる子どもの探究という言い方で位置付けてみたいと思うのです。探究とは，何よりもまず考えることであるということがポイント

で，つまり，問題を解くのではなく，問題を考えるのだというところがポイントです。solve the problemではなくthink about the problemであるということですね。これまで，学校というのは，正解のある問題を解くのが学習だと考えられていますけれども，実際に学問とか研究をやる身になって考えてみれば，問題というのは，解くよりもまず発見するものであって，それについて考えるものであることが前提にあるもので，そうだとすると，従来の問題を解くという考え方から脱却する必要性が出てくるのではないでしょうか。[1]

このように小玉は探究の意義を説明する中で，問題を「解く」ことではなく，問題を「考える」ことや「発見する」ことの重要性を述べる。それでは，学校教育の問題を見つけるとはどのようなことか。模擬講義の主題はこの点をふまえ，研究者である私が学校教育の問題を見つける実例を生徒に示すことに設定した。

そこで私は，子ども福祉[2]との関わりから今日の学校問題の一端を明らかにすることにした。その際，教育と子ども福祉の両方に関わる具体例として，朝井リョウの小説と大阪市立大空小学校を取り上げた。同時に旭川市内の福祉施設，および児童養護施設出身者の大学進学と日本の大学の取組みを紹介した。このような内容にすることによって本講義が，「教育と子ども福祉」に関わる現実と理論を扱う「教育学入門」となるように心掛けた。配布資料は，今後の学習と進路選択に資するように，高校生たちが自分で勉強して探究を続けられることを意図して作成した。本稿文末に参考資料として，当日の配布資料をそのまま掲載する。

⑵　北海道旭川西高等学校での大学模擬講義の実施経緯と状況

実施学校は北海道旭川西高等学校である（以下，旭川西高校とする）。2021年６月に旭川西高校より，北海道教育大学旭川校広報委員会に「教育学関係の講座」の模擬講義依頼があり，筆者が所属する教育発達専攻で調整した。その結果，教育学（幼児教育学・子ども学・教育史学）を専門とする私が担当した。

受講生は，旭川西高校の１年生と２年生である。日時は，2021年７月21日（水）の12時35分から13時40分まで，13時55分から15時00分までの２回，各回55分である。前半に39名，後半に38名，合計77名の高校生が受講した。生徒は前半と後半で別の模擬講義を受講した。生徒たちが高校指定の「レポート用紙」に書いた「講義メモと感想」（Ａ４，１枚）のコピー77名分を，講義翌週に担当の先生から受け取った。

⑶　本稿の構成

本稿の構成を述べる。「２」では，朝井リョウの小説を扱う意義を示す。「３」は模擬授業の記録であり，当日の講義の一部を文章にしたものである。文体は話し言葉とした。当日は前半で板書したものを消さずに後半でも使用した。ただし本稿では再現していない。「４」では模擬講義後の生徒のコメントを検討しながら，本模擬講義「教育と子ども福祉の探究」の意義と教師養成をめぐる今後の課題を述べる。

２．朝井リョウの小説の意義：可能世界を描く小説

小玉は高校のスクールカーストを描く作品として，1989年生まれの作家朝井リョウの『桐島，部活やめるってよ』（2010年）を取り上げた。小玉の問題関心は，公教育である学校で難民として「忘却される」子ども

1　小玉重夫「ツリーからリゾームへ――軌道から逸れる子どもの探究」『児童教育』31号，2021年，28頁。私もオンライン出席した。

2　稲井智義『子ども福祉施設と教育思想の社会史――石井十次から冨田象吉，高田慎吾へ』勁草書房，2022年。

たちがいかにして市民として現れるかにあった[3]。小玉はさらに別の論文で，次のように虚構と現実（可能世界・虚構世界と現実世界）の新しい関係をふまえた学校のあり方を論じる。

> それに対して，ポストトゥルースの時代である現代は，虚構と現実が切り離されていない，むしろその両者が，可能世界と現実世界という形で相互浸透し始めている時代としてとらえられる。その象徴として「シン・ゴジラ」あるいは「君の名は。」［どちらも2016年公開映画：引用者］という作品は存在している。そのように見れば，本稿の冒頭であげた18歳選挙権というものが持っている歴史的な射程も見えてくるのではないか。すなわち，イデオロギーが理想を体現していた時代における教育と政治の結びつき方とは異なる形で，再び教育と政治が相互浸透し始めているありようを，それは示唆している。
>
> 二つの作品は可能世界・虚構世界と現実世界の相互浸透がテーマとなっているので，ポストトゥルースの時代における反知性主義をそこに見いだすこともできる。しかし他方で，そこに予見不可能な偶然性に定位する来たるべき市民，来たるべき民主主義の芽を見ることもできる。
>
> そうした芽にかけることが求められている。すなわち，これまで述べてきたことを繰り返せば，亡霊を追放するプラトン主義へと退行することではなく，むしろ，亡霊の存在と向き合い，それを来たるべき市民の主体化を促す方向へと組みかえていくことが求められているのだ。それは，可能世界・虚構世界と現実世界の相互浸透のただなかで，そこに予見不可能な偶然性に定位する来たるべき民主主義を見（ママ）みいだすことにほかならない。[4]

小玉によれば，「虚構と現実が切り離されていない，むしろその両者が，可能世界と現実世界という形で相互浸透し始めている時代」における，学校のあり方が問われている。さらに小玉はこの議論を発展させて，「可能世界としての学校」と定義する。

> 可能世界とは，虚構とは異なり，現実世界との相互浸透の中で，複数の現実可能性を含む世界のことである。……。それら選択肢を選んだ先のありえる世界，つまり可能世界を考えることが，学校で論争的な問題を扱うということである。したがって，政治教育は学校を可能世界の場にすることを要請する。[5]

この視点にならえば朝井リョウは『世界地図の下書き』（2013年）で現実世界を描くと同時に，それとは異なる可能世界・虚構世界を描いたといえる。なぜなら朝井は，2012年12月に高校生が顧問教諭による体罰で自殺した現実と東京都内児童養護施設職員への聞き取りをふまえて，小説という虚構（フィクション）で施設の子どもたちの難民状況を，その状況から「「逃げる」という選択肢」とともに描くからである。このことは，朝井が受賞した2013年坪田譲治文学賞の選評パンフレットの「受賞者のことば」から読み取れる。坪田譲治文学賞選考委員の森詠がパンフレットを引用した「受賞者のことば」が『世界地図の下書き』の文

3　小玉重夫『難民と市民の間で――ハンナ・アレント『人間の条件』を読み直す』現代書館，2013年。

4　小玉重夫「ポストトゥルースの時代における教育と政治――よみがえる亡霊，来たるべき市民」『近代教育フォーラム』27号，2018年，37頁。

5　同上論文の上記引用箇所を含む「６むすびにかえて―可能世界と現実世界」を発展させた論文での指摘。小玉重夫「可能世界としての学校」広瀬裕子編『カリキュラム・学校・統治の理論――ポストグローバル化時代の教育の枠組み』世織書房，2021年，121頁。2021年論文では虚構と可能世界がより明確に区分された。この引用箇所と佐伯胖の「かもしれない世界」の共通点を指摘した小論として，稲井智義「かもしれない世界と日常の中の異界を覗き込む力」北海道教育大学附属旭川幼稚園『研究紀要（令和４年度）』2023年。

庫版「解説」にあるため，そこから引用しつつ，2023年２月に入手したパンフレットから補足を加える。

それは，『ある高校の男子バスケ部の部長が，顧問からの体罰が原因で自殺をした』［パンフレットは墨付き括弧］というニュースでした。このニュースに触れたとき，私は，『逃げる』［パンフレットは一重鍵括弧］という選択肢が彼の頭の中に浮かばなかったのはどうしてなのだろう，と考えました。そのとき，この物語の種が生まれたのです［パンフレットは文末に句点］

小さな子どもたちが，自らの想像力で，今いる場所から逃げる，もとい，自分の生きる場所をもう一度探しに行く，という選択をする物語。そんな物語を書き，『逃げる場所がある』［パンフレットは一重鍵括弧］という想像力を失いかけている誰かに届けたいと考えました［パンフレットは文末に句点］[6]

以上のように『世界地図の下書き』は虚構（フィクション）を描くだけでなく，「「逃げる」という選択肢[7]」（朝井）を「選んだ先のありえる世界，つまり可能世界」（小玉）を描く小説であり，可能世界・虚構世界と現実世界が相互浸透する時代を象徴する，先駆的な作品の一つである。

以上で述べた視点をふまえて本稿は生徒コメントを分析する際に，生徒たちが講義内容を適切に理解したかだけでなく，模擬講義を通じていかなる別の可能性や「「逃げる」という選択肢」，「選択肢を選んだ先のありえる世界」を考えたかにも焦点を当てる。

３．教育と子ども福祉の探究

⑴　はじめに：探究の時代と教育

本日は，どうぞよろしくお願いします。いないともよしです。テーマは「教育と子ども福祉の探究」としました。いま教育の世界で「探究」が注目されています。

実際に2018年３月30日の高等学校学習指導要領が改訂されて，2022年度からは高等学校で「総合的な探究の時間」が実施されます[8]。西高校でも「探究の時間」が前倒しされて設置されているのを，ホームページで確認しました。探究的な活動をしている場面の写真も見ました。あるいは，2020年７月に17歳11か月（当

6　森詠「解説」朝井リョウ『世界地図の下書き』集英社文庫，2016年６月，359-360頁。朝井が言及したのは，2012年12月23日の大阪市立桜宮高等学校の男子生徒が自殺した事件である。大阪市立高校は2022年度に大阪府に移管された。最近の記事は，NHK「命絶った息子が受けたのは“体罰”じゃない」『NHK』2022年12月７日，https://www3.nhk.or.jp/news/html/20221207/k10013913521000.html, 最終閲覧2023年２月14日。同書の「取材協力」に「都内児童養護施設の皆さま」「津南町観光協会の皆さま」「岡山県美作市上山集落の皆さま」とある。2023年２月20日に岡山市市民生活局文化振興課に問い合わせたところ，2013年坪田譲治文学賞選評パンフレットの提供を受けた。岡山市・岡山市文学賞運営委員会『坪田譲治文学賞――第29回岡山市文学賞』2014年２月発行。記して感謝を申し上げます。朝井リョウ「受賞者のことば」全文は2-3頁掲載。岡山市は1984年12月に坪田譲治文学賞条例を制定し，1985年度に坪田譲治文学賞を始めた。坪田譲治（1890-1982）は岡山市生まれの児童文学作家。坪田が編集した本に「石井十次」の話もあるため，別の機会に論じる。坪田譲治編『ふるさとを訪ねて 岡山（少年少女文学風土記２）』泰光堂，1959年。岡山市は「文学創造都市岡山」を掲げて，2023年にユネスコ創造都市ネットワーク（文学分野）への加盟申請を予定している。https://www.city.okayama.jp/bungakucity/，最終閲覧2023年３月９日。

7　これは，ドゥルーズの「逃走線」と言い換えてもよいであろう。千葉雅也は「全体性から逃れていく動きは「逃走線」と呼ばれます」と解説する。千葉雅也『現代思想入門』講談社現代新書，2022年，76頁。

8　鈴木明日見「新学習指導要領で目指される高等学校における社会科教育」『駒沢史学』95号，2021年。幼児教育については，稲井智義「幼児教育における探究」北海道教育大学附属旭川幼稚園『研究紀要（令和３年度）』2022年。

時，高校三年生）で棋聖になった藤井聡太さんは「探究」と色紙に書き，その意味について「これからも探究心を持って盤上に向かっていきたいという思いを込めました」と述べています[9]。

さらに東京大学の小玉重夫先生（私の大学院指導教員）は，夢ナビ編集部がまとめた記事「新しい教育のキーワードは「市民性」で，高校生に向けて探究の大切さを示す「メッセージ」を述べています。

> 高校までの勉強では,「答えを出すこと」が求められると思いますが, 大学では,「答えを出すこと」より,「何が問題になっているのかを見つけること」が求められます。ですから，高校時代から,「問題を見つけようとする姿勢」をもってください。そのためには，広く世の中で起きていること，教育問題はもちろんですが，経済問題や外交問題など，いわば「答えの出ない問題」に自分なりに取り組んでみることが大切です。そうした習慣を身につけることで，大学での学びがいっそう価値あるものになると思います。[10]

ここでも問題を見つけること，いいかえれば，探究の大切さが述べられています。

市民性とは，政治や社会の担い手である市民としての資質・能力のことです。日本では2016年６月に18歳で選挙に行くことができるようになりました。市民性がキーワードになるのは，こうした時代の変化の表れです。政治とは異なりますが，2022年４月から民法の成年年齢が18歳に引き下げられます。18歳で大人として扱われるということです。さきほど学校の中で，成年年齢引き下げのポスターを見かけました。

今日の講義では教育について考えます。さらに今回の講義のタイトルに「子ども福祉」という言葉を入れました。私としてはひとまず,「子ども福祉」を「子どもに特別なケア（世話や配慮）を保障する施設や制度，理念」と定義しておきます。今日は「子ども福祉」という視点からも教育について考えます。

⑵　福祉を必要とする子どもがいる学校教育の問題を見つける：朝井リョウの小説から

まず，福祉を必要とする子どもがいる学校教育の問題を見つけてみます。手がかりとして，1989年生まれの朝井リョウさんの小説を三つ，取り上げます。一つが『桐島，部活やめるってよ』（集英社，2010年２月，集英社文庫，2012年４月）です。このような場面があります。

> ［野球部高校生の独白］……映画部の男子ふたりも，って, あれ, あいつらは同じクラスにいた気がする。確かいつもふたりでよくわからない映画雑誌かなんか眺めてたっぽいけど，映画部だったんだ，っつうか映画部なんてあったんだ。[11]

これは,「スクールカースト」と呼ばれる生徒の人間関係を示しています。野球部から見ると，映画部の二人は「同じクラスにいた気がする」程度の存在である, そして「映画部なんてあったんだ」というような，映画部があるかないかわからない程度の存在であるということです。このような「上にいる」とされる生徒からみると,「下にいる」とされる生徒の存在がわからないという状況が21世紀日本の学校で生じています。

次に『何者』（新潮社，2012年11月，新潮文庫，2015年６月）を取り上げます。『何者』は大学生の就職活

9　時事通信映像センター「「これからも探究心持って」藤井棋聖が一夜明け会見」『YouTube』2020年７月17日。

10　小玉重夫「新しい教育のキーワードは「市民性」」夢ナビ編集部編『夢ナビ』作成年不明，https://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g003414，最終閲覧2022年２月15日。小玉重夫「曲がり角にある教育学。その課題を考える」夢ナビ編集部編『夢ナビ』作成年不明，https://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g003415，最終閲覧2022年２月15日。これらの記事は，2010年頃から2010年代前半頃（少なくとも2016年18歳選挙権の時代より前）までには掲載されたように, 私は記憶している。

11　朝井リョウ『桐島，部活やめるってよ』集英社文庫，2012年４月，182頁。

動を描いた本です。就職活動を通じて自分は「何者」か問われる話です。メインの登場人物たちはみんな，なかなか内定が得られず就職できない人です。「ツイッター」での発言のようなものが出てきます。ネタバレをしても面白く読めるそうです。この本の主人公は「裏アカウント」（自分とわかるように発信しているアカウントとは別のアカウント）を使って，インターネット上で発言をしています。就職できない人（就職難民）たちは社会から「忘れられている」存在です。スクールカーストと就職難民の共通点は「いるかいないかわからない」，「忘れられている」という点にあります。

最後に，『世界地図の下書き』（集英社，2013年７月，集英社文庫，2016年６月）を取り上げます。小説の後半で次のような発言があります。

［５年前から児童養護施設で暮らす小学６年生の淳也］「机もみんなから離されとるし，誰もぼくに近寄ってこん。話しかけてこん。守ってくれる太輔くん［３年前に両親を交通事故で亡くした主人公，同学年別学級］がおらんくなって，もう二年もずっとそのままや。ユーレイでおることがもう，普通になってまった」「だからな，わかっとった。泉ちゃん［淳也の妹で４年生の麻利の同級生］もきっと変わらんってこと。ぼくらが全校分のランタンを作ったとしても，人をいじめるやつはいじめ続ける。約束とかそんなん，あいつらには関係ないんや」[12]

小学６年生が同級生から「ユーレイ」扱いされている。妹はきっと「約束」が同級生から守られない。存在が忘れられるスクールカーストが小学生でも生じて，低年齢化している状況がここで示されています。

このような状況を，朝井さんはインタビューに答えて「セーフティーネットがない」と表現しています。

『何者』を書いていたときから思っていたのですが，どうして今の世の中には精神的なセーフティーネットがないのかと疑問に思ったことがそもそものきっかけです。就職活動では新卒で内定が取れなかったら終わりというように，ほかのものでカバーできないような空気感があったのですが，もっと小さい子供たちがいじめや体罰で自ら命を絶ってしまうのをニュースで見て，彼らにもセーフティーネットがないんだなと感じました。では，なぜいじめや体罰がある場所から逃げ出さなかったのかと考えたとき，“逃げる”または“生きる場所を変える”という選択肢を想像すらしなかったのではないかと気づいたのです。だから，児童養護施設という，ある意味守られている場所からいつか必ず出なくてはならない子供たちを主人公にして，彼らにしっかりとした希望を背負わせてあげたいという気持ちが大きかったです。[13]

「セーフティーネットがない」状況を書くことが，朝井さんの作品の一貫した考え方であるといえます[14]。

12　朝井リョウ『世界地図の下書き』集英社文庫，2016年６月，前者の発言が350頁，後者の発言が351頁。原著（集英社，2013年７月）ではどちらも319頁。表紙イラストを描いたのは，スタジオジブリ作品にも携わった近藤勝也である。本稿で再現していないが，模擬講義の後半では最後にアドリブで，宮崎駿『となりのトトロ』（スタジオジブリ，1988年）の５歳児「メイ」は未知のもの（おばけ）を探究していると紹介した。『となりのトトロ』については前掲「かもしれない世界と日常の中の異界を覗き込む力」で，宇野常寛『母性のディストピア』（集英社，2017年）出版後の対談での発言を参照しながら言及した。

13　朝井リョウ「インタビュー」集英社，2013年，https://lp.shueisha.co.jp/sekaitizu/，最終閲覧2022年３月13日。次のインタビューもある。朝井リョウ・八木寧子「インタビュー 朝井リョウ『世界地図の下書き』「願いとばし」の先にある，子供たちの希望を描いた小説」集英社編『青春と読書』48巻７号，2013年７月，22-25頁。

14　『世界地図の下書き』について，私は2013年８月に書き上げた原稿「子どもの歴史から見た岡山孤児院」（石井十次の会『むつび』194号，2013年11月掲載）で取り上げて，以下のように書き，学校・施設外での子どもたちの活動に言及した。「最近，

⑶　よりよい学校教育を考える：大空小学校の取り組みと福祉を必要とする子どもから

それでは，いま，学校に何ができるか。ある小学校のエピソードを紹介します。「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」という「学校の理念」を掲げる大阪市立大空小学校（2006年設立，初代校長は木村泰子）を2012年度に卒業して，中学生の時に児童養護施設で暮らし始めた高校生カズキが放課後学習指導塾に戻って来ました。卒業時の校長の木村泰子先生は，カズキについて著書で次のように書いています。

……今のカズキの姿は，地域の人たちが彼を優しく包んでいなかったら，おそらくなかったことでしょう。児童養護施設で，毎年子どもたちにとっているアンケートの中に，「あなたには信じられる人がいますか？」という項目があるのですが，大半の子が「いない」と答える中，カズキは「大空の人」と書いているそうです。まさに地域の方たちがいてくれたからこそ今のカズキがある。特にクボタさんがいてくださったからこそ，今のカズキがあるのだと私は思います。[15]

この学校について，みなさんはどのように思いますか，考えますか。この学校を舞台にしたドキュメンタリー映像『みんなの学校』（2015年）があります。「文部科学省特別選定作品」にもなっています。自主上映会が北海道や旭川でも行われています。予算があれば高校でも上映できます。関心があれば見てください。

なお同じ大阪を舞台にしたドキュメンタリー映像『さとにきたらええやん』（2016年）もあります。大阪市西成区にある「こどもの里」が舞台です。北海道で自主上映会が行われたこともあります。私も視聴しました。子どものことに関心がある方は，ぜひ見てください[16]。

大空小学校には「子どもにつける４つの力」があります。「人を大切にする力」，「自分の考えを持つ力」，「自分を表現する力」，「チャレンジする力」です。この「４つの力」を伸ばすことを大切にして，大空小学校の先生方は教育をしています。子どもたちは学期が始まるときに，どの力をこの学期で特に伸ばしたいと考えるかを自分で決めています。校舎の２階で職員室・校長室の向かい側の壁に「４つの力」が掲示されていて，自分が伸ばしたいと決めた「力」の下に自分の名前も張り出します。

大学で授業をするときに，私は学生に「４つの力」のうち，いま，どの力を伸ばしたいと考えるかについて問いかけて，手を挙げてもらっています。みなさんにも聞いてみていいですか。みなさん決まりましたか。それでは聞きます。どれかで手を挙げてください。「人を大切にする力」の人……。「自分の考えを持つ力」の人……。「自分を表現する力」の人……。「チャレンジする力」の人……。という感じです。

大空小学校には校則はありません。「たった一つの約束」があります。「自分がされていやなことは 人にしない 言わない」というものです。もしもそれを破ってしまったときには，「やりなおし」をします。校長

ある若い作家は児童養護施設を舞台に子どもの世界や逃げ道の可能性を描いた（朝井リョウ『世界地図の下書き』2013年）。ただ，私が読んだところでは，小説に登場する子どもたちの周りには，施設職員の「みこちゃん」や小学校の先生，各世代のボランティア，親たちがいた。彼女らの協力があって（いけないことは叱りながらも），四人の少年少女は高校卒業間際で施設から親せきの所で働く予定の「お姉ちゃん」のために，三年前のある自己でなくなっていた伝統ある祭りを作り直した。このフィクションが書かれた現在は，岡山孤児院があった時代とは違うところばかりである。しかし，歴史や文学を手がかりにしながら，さらには歌を歌ったり，子どもの声に耳を傾けたりしながら，今日の社会で生きる子どもとともに大人が何をするのかが大切な課題であると，私は信じている。」

15　木村泰子『「みんなの学校」流自ら学ぶ子の育て方』小学館，2016年，42頁。なお模擬講義の前日，７月20日（火）に筆者が分担する大学の講義「教育学入門」で話を聞く機会があった。講義後にカズキのその後と現在，カズキが生活した施設についても聞いた。

16 「こどもの里」については，たとえば荘保共子・岡部美香「制度の「間」で子どもを見守る」『学術の動向』27巻６号，2022年。『さとにきたらええやん』は，2022年２月に私が分担する大学の講義「幼児理解と教育相談」で視聴した。

室に自分からきて,「やりなおし」を宣言して戻ります。校長室にいる校長先生やそれ以外の先生,あるいは,たまたまいた大人が「やりなおし」を見届けます（もちろん校長先生が不在のときもあります)。

大空小学校は「自分から　自分らしく　自分の言葉で語る」ことも大切にしています。木村泰子先生は,退職後に本もたくさん書かれています。インターネットで読める記事もあります[17]。木村先生から聞いた話があります。木村先生は子どもたちに「わからないところはどこですか？」と聞きます。「わかりましたか？」と聞いても意味がないからです。子どもたちはわかっていないのにわかったふりをするからです[18]。

木村先生は「あなた，どう思う？」とも聞くそうです。小玉先生はガート・ビースタという教育哲学者の議論を参考にしながら,「みなさんはこれについてどう考えますか」という問いかけが重要であると指摘しています[19]。木村先生の問いかけもこうした議論と重なります。みなさんもぜひ，自分に「わからないところはどこですか？」「あなた，どう思う？」と問いかけてください。将来，子どもに関わることがあれば,子どもに問いかけてください。僕の今日の話がみなさんにとってわからないところだらけかもしれませんが。

⑷　おわりに：これからの教育と子ども福祉の探究のために

「これからの教育と子ども福祉の探究のために」必要なことは何でしょうか。私は,「虚構と現実が切り離されていない学校で子ども福祉とともに複数の現実可能性を探る」ことであると考えます(詳しくは後述)。

『世界地図の下書き』の高校３年生佐緒里の大学進学の問題が描かれます。弟の入院と親戚夫婦の会社の事情で，大学進学を諦めて，その会社で働くことが決まります。児童養護施設で暮らす子どもたちが大学進学できるかどうかは，今後もみんなで考えるべき問題です。大学進学率は一般に，家族と暮らす子どもより児童養護施設で暮らすほうが低い状況にあります[20]。

現実はどのようになっているでしょうか。私が岡山孤児院（1887年設立）研究でお世話になっている社会福祉法人石井記念友愛社と連携している大学の取り組みもあります。あるいは,早稲田大学は2017年度から,児童養護施設等で育った方を対象にした「紺碧の空奨学金」を設けています。青山学院大学は2018年度から「全国児童養護施設推薦入学者選抜」を実施しています。すべての学部が対象です[21]。子どもの教育と福祉の歴史を研究しながら大学教育に関わっている私自身，この問題について考え続けたいと思います。

「教育と子ども福祉」という主題はみなさんにも身近なことです。旭川には児童養護施設が一つあります。旭川育児院です。1921年10月24日に設立されました[22]。私も一度，大学生たちと一緒に見学させてもらいました。旭川隣保会もあります。1924年に託児所を設立して1940年に母子ホームを始めました。現在，保育所

17　たとえば，木村泰子「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」明治図書『教育zine』2018年８月20日，https://www.meijitosho.co.jp/eduzine/finc/?id=20180699。木村泰子「映画『みんなの学校』木村泰子さんが考える，保幼小や地域との連携の重要性【Vol.4】」『ほいくis』2019年12月27日，https://hoiku-is.jp/interview/detail/300/，いずれも2023年２月18日最終閲覧。後者では「保育園，幼稚園はそこで完結していい」とある。これはいわば保幼小の「切断」の視点である。この点は別の機会に論じたい。

18　木村泰子『10年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方』青春出版社，2020年。

19　小玉重夫『学力幻想』ちくま新書，2013年，159頁。

20　木原育子「「夢じゃないよね？」児童養護施設から青学大へ，推薦入試で第１号　学費は免除，全国的にも珍しい新制度」『東京新聞』2018年12月16日，https://sukusuku.tokyo-np.co.jp/education/9461/，最終閲覧2023年３月３日。ここでは,「厚生労働省によると，昨年の児童養護施設出身者の大学進学率は14％で，全国平均52％の３割以下にとどまっている。2012～2016年の５年間，施設出身者の大学進学率は11～12％で低迷を続けている」と書かれた。

21　大学基準協会「児童養護施設入所者対象の推薦入学者選抜制度：青山学院大学」作成年月日不明（「2021年度」とある)，https://www.juaa.or.jp/case_study/detail.php?id=563&page=11，最終閲覧2023年３月３日。

22　旭川育児院「法人の沿革」https://asahikawaikujiin.hjk.ne.jp/enkaku.html，最終閲覧2022年２月15日。

と母子生活支援施設（1998年児童福祉法改正により「母子寮」から名称変更）を運営しています[23]。

みなさんのどなたかがこれらの施設の関係者かもしれません。関係者がこの高校にもいるかもしれません。自分のことであるかもしれませんし，身近なことでもあるということを，どこかで考えながら高校生活を過ごしてほしいと思います。

最後に動画と本の紹介をします。学校に関する文学と教育実践を取り上げる発想は，小玉重夫先生の「教育におけるリアルとヴァーチャル」を参照しました。動画も視聴できます[24]。小玉亮子先生は模擬授業で映画や文学を用いて，子どもをめぐる歴史と社会について解説しています[25]。「友だち」をめぐる問題は，2016年に亡くなられた社会学者の菅野仁さんの『友だち幻想』(ちくまプリマー新書，2008年)が入門書です。「ちくまプリマー新書」は中高生向けに書かれた本です。2018年４月放送の『世界一受けたい授業』で又吉直樹さんが紹介しました。「深い勉強」や「ノリ」，「空気」について考えるうえでは，千葉雅也『勉強の哲学 来たるべきバカのために 増補版』（文春文庫，2020年）を推薦します[26]。「恥も外聞も捨てて」というセリフが，TBSのドラマ『ドラゴン桜』（2021年）に出てきましたので，黒板に書いておきます。

何か質問やわからない点はありますか。本日はどうもありがとうございました。みなさんがどのようなことを考えたかを知りたいので，何か書いていただければ，私にとっても勉強になります。みなさんのコメントを担当の先生に持ってきてもらう予定です。難しい話やわかりにくい話もたくさんあったと思いますが，本日はお付き合いくださり，そして貴重な機会をくださり，どうもありがとうございました。

４．模擬講義後の生徒たちのコメントの検討

以下では，模擬講義後の生徒たちのコメントを引用しながら検討する。生徒の数字は，担当の先生から受け取った用紙に上から番号（１～77）を振ったものである。おそらく前半と後半の順序になっている。学年，クラスなどについては特に順番になっていない。引用文の「探究」「探求」などは原文どおりである。

多くの生徒が具体例もあり「わかりやすかった」，「教育学に興味を持った」と書いたため，本講義には一定の意義があった。たとえば生徒14は「普段通りの授業を少し聞いてみたいと思った」と書いた[27]。前半と後半の講義後には，コーディネーターを務めた先生が『みんなの学校』を見たことがあり，生徒に機会があ

23　旭川隣保会「社会福祉法人旭川隣保会沿革」http://rinpokai.hjk.ne.jp/houkokusyo/ennkaku.pdf，最終閲覧2022年２月15日。なお旭川育児院と隣保会母子寮があるように，子ども福祉施設から旭川西高校に通う高校生もいるかもしれない。模擬講義の受講者のなかに，施設にいま住んでいる，住んでいたことがあると書いた生徒がいたかいなかったかについては，私は明らかにしない。もっとも福祉施設で暮らす（可能性を持つ）子どもたちがいることを前提にした，乳幼児教育から高等教育までを含む公教育とそれを担う教師（を大学で養成すること）でなければならないと考える。

24　小玉重夫「教育におけるリアルとヴァーチャル」東京大学公開講座「仮想と現実」2016年11月12日実施，https://todai.tv/contents-list/2016FY/2016autumn/04, 最終閲覧2022年２月15日。この動画ですでに「可能世界と現実世界の相互浸透」や「可能世界としての学校」という表現が使われている。

25　お茶の水女子大学「【模擬授業】子ども学コース・小玉亮子教授「子ども学で考える」」2020年９月３日，https://www.youtube.com/watch?v=aYMfdC3yoOg，最終閲覧2022年２月15日。

26　この本の冒頭は出版社HPで閲覧可。https://books.bunshun.jp/ud/book/num/9784167914639, 最終閲覧2023年２月19日。同書は，2022年に北海道教育大学図書館の冊子に紹介文を書いた。図書館HPから閲覧可。私が2022年度に担当した「アカデミックスキル」で講読した。同じ著者の『現代思想入門』は，2022年度「幼児の環境」，2023年度以降の「保育内容指導法（環境）」の教科書である。

27　全文は次のとおり本模擬講義の様子を示している。「あまり生徒に当てて聞くようなことはなかったが，手を挙げさせるような事はしばしばあった。普段通りの授業を少し聞いてみたいと思った。はっきりと断言することが少なく自分と似たものを感じた。口癖⇒「だからなんだ」「いるかも，いないかもしれない」」。

れば見るように勧めていた。他方で，生徒40は「自分は教師になりたいけれど，教育学は少し難しそうだと思った。」（全文）という。この生徒のように真剣に講義を聞いたにもかかわらず，教育学を難しいと思ったのであれば，私の責任である。真剣に聞く生徒が十分に理解できる講義にすることは今後の課題である。

次に，当日の模擬講義内容を十分に網羅していると思われる高校２年生２名の「感想欄」全文を示す。

生徒48「授業でもあるが探究心をもつこと，問題を見つけようとする姿勢が大切だと改めて感じた。小説を中々読まないのでプリントにあげられているものを読んでみようかなと思った。自分の身近にも起こりうる話なので考えを深められそうだと感じた。大空小学校の取り組みが良いと思った。学校にいる生徒が自ら物事を考え，発言する力というのは大切だと思うから実際にこういう取り組みをしている小学校があるのを知れて良かった。自分がどう思うかを言葉でしっかり伝えられるようになりたい。一つの問題についてみんなで考えて話し合う力というのはどの場面においても必要だと思うからそれを磨ける環境があることが大切だと思った。地域の人が学校に関わっているというのを感じられる機会は中々ないので小学校でそういう場合を感じられるのはいいと思った。課題研究の授業でも，探究心をもつことを忘れず，チャレンジする力を身につけられるように頑張りたいと感じた。」

生徒53「私たちが今取り組んでいる探求は正解はなく，どんどん疑問を持つことでよりよいものになるんだと気づかされました。「逃げるという選択肢」があるだけでどれだけ心が楽になるということも知りました。朝井リョウさんの本の内容を通して子ども福祉について深く考えさせられました。正解を１つつくってそこにしばりつけることはあってはいけず，子どものしたいことをのびのびできる環境をつくることが大切だと考えました。話しにもあったように「みんながつくるみんなの学校」というような教育環境が増えてほしいなと思いました。」

このように生徒48は，小説の内容が「自分の身近にも起こりうる話」であると理解した。生徒53もまた，朝井リョウの小説を通じて「子ども福祉について深く考えさせられた」という。二人のコメントは，小説という虚構から現実を考え始める可能性を示している[28]。

もっとも「虚構と現実が切り離されていない学校」という模擬講義で用いた表現を，「感想欄」に書いた生徒はいなかった。ここで補足するならば，「虚構と現実が切り離されていない学校で子ども福祉とともに複数の現実可能性を探る」[29]という表現は，文学が描く可能世界と虚構世界を通じてとらえ直された現実の学校の中で，子ども福祉とともに複数の現実可能性を探ることを意味している。とはいえ，生徒30は「文学を学んで教育と子ども福祉の可能性を探究すること」について以下のように書いた。

生徒30「昔の人が書いた文学を学んで教育と子ども福祉の可能性を探究することって文学だけでなく，世界史や日本史などからでも参考になるものがありそうだなと思いました。／世界史や日本史を学んで何に

28　小説の登場人物の名前を仮名に用いた岩手県私立高校教師による教育実践記録について，別の機会に論じたい。関谷純「生徒がことばを持つ時――「スクールカースト」をくみかえる」『高校生活指導』198号，2014年（望月一枝・森俊二・杉田真衣編『市民性を育てる生徒指導・進路指導』大学図書出版，2020年に再録）。関谷純は，米澤穂信『氷菓』（角川文庫，2001年11月，2012年テレビアニメ，2017年実写映画）に登場する，サブ主人公千反田える（口癖は「わたし，気になります」）の行方不明になった叔父である。

29　この箇所については，模擬講義部分だけを読んだ大学生から「わからない」と，大学教員から補足が必要であるという指摘があった。

なるかと思っていたけどこうゆう使い道があるんだなと気づかされた」（全文，「／」は改行の意味）

模擬講義で，私は世界史や日本史について言及していない。しかしこの生徒30は，虚構ではなく現実を扱う歴史の学習に文学と同じ探究の手がかりを見いだした[30]。次の生徒の言葉もまた，何かの探究が生まれる予感が読み取れる。

生徒31「内容が難しかったのか，ぼくの理解力がなかったのかよく分からなかったです。いろいろな本とか映画とかを例にして説明してくれてたけど，それが教育に関係しているのは分かったけど，そこから何が探究につながっているのかが，よく分かんなかったです。でも，とてもいい経験でした。」（全文）

確かに私の講義は，「何が探究につながっているのかが，よく分かんなかった」といえる。「でも，とてもいい経験でした」という言葉は，小玉が高大接続に関する論文で引用した，「どこへ行くのか，どこから出発するのか，結局のところ何が言いたいのか，といった問いは無用である」というフランスの哲学者ドゥルーズとガタリの言葉に重なる。小玉はこのような考えに基づく教育を，「リゾームとしての教育，「中間地点」にとどまる，つまり出口のない，答えのない問いと向き合う子どもたちの探究活動をベースにした，ローカルでより分権的なリゾーム型の知の論理」と説明する[31]。本講義を通じて，「リゾーム」としてのささやかな「探究心」が生徒たちに生まれたといえる。

この点にもかかわって，「恥と外聞を捨てて」という言葉や『勉強の哲学』の紹介をおそらく受けて，「勇気」に言及した生徒もいる。生徒４「恥を捨てることが必要なのだと知った。勇気を持って自ら考え選択していこうと思った」。生徒13「勉強には勇気が必要ということ」[32]。「探究」については模擬講義で「正解のない問いを問い続ける」[33]ことであると板書したが，この点に言及した感想を書いた生徒もいた（生徒10，15，16，24，29，55）。このように生徒たちの探究と勉強を後押しした点もまた，本講義の意義である。

ところで，「チーム【××】における【○○○】の役割」[34]という題名の模擬講義の用紙が，先生から受け取った封筒に入っていた。人数は一致するため，生徒か先生の間違いか意図的な行為である。おそらくは誤配である。ただし誤配は，教育や探究を考えるうえでも重要である。批評家東浩紀は次のように述べる。

30　高校歴史教育と探究については，小田中直樹『歴史学のトリセツ』ちくまプリマー新書，2022年。成田龍一『歴史像を伝える――「歴史叙述」と「歴史実践」』岩波新書，2022年。

31　小玉重夫・村松灯・田中智輝「高大接続改革の教育政治学的意義」『東京大学大学院教育学研究科紀要』2022年，285頁。

32　次のようなコメントもあった。生徒28「胸に刺さる言葉も数個ありました」。生徒60「心にひびくような言葉を聞けた，有意義な時間だった。久しぶりにトトロが見たくなりました」。

33　「正解のない問いを問い続ける」ことが「学び」であるという言葉を，2017年度前期「教育学入門」でゲスト講師を依頼した木村泰子氏から聞いた。本模擬講義で用いたのは，木村氏の言葉である。記して木村泰子氏に感謝を申し上げます。

34　「○○○」は職業名，「××」は職種（教育，福祉など）に該当する。この職業は，日本テレビのドラマ『ブラッシュアップライフ』（2023年１月８日から３月12日まで）にも登場する。たとえば同ドラマでは，地方公務員，薬剤師，テレビ局員，ヘアメイク，保育士，中学校教師，受付，医師（研究医），歌手志望，カラオケ店員，パイロットなどの職業が描かれる。1989年10月27日生まれの主人公はおよそ30代で亡くなり，０歳から人生を何度もやり直す。ドラマの中に実在の音楽とドラマも登場する点で，現実世界と可能世界・虚構世界の相互浸透が読み取れる。なお主人公が「死に戻り」するライトノベルとして，長月達平『Re:ゼロから始める異世界生活』KADOKAWA，2014年がある。別の可能性を模索することを描いた小説である。2006年開校の大空小学校には「やりなおし」がある。

誤配こそが社会をつくり連帯をつくる。だからぼくたちは積極的に誤配に身を曝さねばならない。[35]

ルソーもローティもおそらくは誤配の哲学者だったのだ。誤配こそがヘーゲルが見なかったものであり，そしてぼくたちがいま回復しなければならないものなのだ。観光客の哲学とは誤配の哲学なのだ。そして連帯と憐れみの哲学なのだ。ぼくたちは，誤配がなければ，そもそも社会すらつくることができない。[36]

誤配を通じた新しい連帯と社会[37]について考えることは，大学とその他の学校との接続関係，大学を含む学校と社会との関係，そして探究をする教師と生徒の関係について考えることにもつながるであろう。

実際にこの模擬講義を受けた高校２年生は2023年度に入学する可能性がある。当日生徒に挙手してもらったところ，教員に少しでもなる可能性を考えている者は２割もいなかった（各回約８名）。実際にコメント用紙で，「教師・教員になる」，「教育系の進路を考えている」ことを読み取れたのは，15名であった[38]。「進路選択にも生かしていきたい」，「今後の勉強や進路に役立てていきたい」，「地域に関わる仕事をしたい」，「施設で仕事をする先生…引用者中略…色々，子ども福祉に関係する小説や映画があったから，時間や金がある時に読んだり，見たりしたい」のように，本講義から進路ついて考える手がかりを得た生徒や，地域や福祉の仕事を考えている生徒も，あわせて４名いたこともコメント用紙から確認できた。

以上のように本稿は，可能世界と現実世界を相互浸透させる朝井リョウの小説を扱う意義を示したうえで，高校での大学模擬講義の内容を示し，その意義について明らかにした。本模擬講義を通じて，「教育と子ども福祉」の現状と課題，取り組みを，小説と実践の具体例を通じて高校生に伝えることができ，さらにいくらかの生徒たちは探究と勉強について考えるきっかけとなった。

しかし「教育と子ども福祉の探究」の視点から，高校だけでなく教師養成と大学のあり方を考えることは残された課題である。模擬講義でも言及した市民性や探究は教師養成にいかなる意味を持つか[39]。探究する市民としての教師を福祉と文学を行き来しながら養成することについての検討を，今後の課題としたい。

付記：貴重な機会をくださった北海道旭川西高等学校の生徒たちと先生に感謝を申し上げます。模擬講義部分を読んでくれた本学教員と2022年後期担当科目受講生にも感謝したい。コメントを参考にして，最終原稿を執筆した。本研究は，科学研究費補助金（19H01649「グローバル化時代の子ども観の質的転換と子どもの権利保障政策に関する比較社会史研究」，20K13948「子ども福祉施設における幼児教育実践と母性規範・新教育思想の関係に関する社会史研究」）の助成を受けた研究成果の一部である。

35　東浩紀『ゲンロン０　観光客の哲学』ゲンロン，2017年，９頁。この言葉は，「「手紙の誤配」で変わる社会　東浩紀の理想――哲学者が考えていること⑵」『日本経済新聞』2020年６月28日でも引用されている。

36　同書，198頁。なお東浩紀によるデリダの亡霊論への言及は，小玉前掲2018年（34頁）でも参照されている。

37　生徒56は「今日の講義を聞いて「社会」についてかなり考えさせられたなと思いました」という。

38　ここでは，「もし自分が教師になったら」，「教科を教えたいからなりたい」，「教員になるという夢」，「教師になろう」，「教育系につきたい」，「教育と子ども福祉に関して勉強するのはたいへんそうだと思ったがやりがいもありそうだった」，「将来教育に関わりたい」，「自分は教師になりたい」，「将来教師になりたい」，「将来は教員を目指している」，「興味のある職業の中に学校教員があって」，「将来自分は教師になりたい」，「将来もし学校の先生も考えている」，「自分も教育系に興味があった」などのコメントを取り上げて，15名とした。

39　市民性と教員養成については，稲井智義「教員養成カリキュラムを市民化する」『教師教育研究』９巻，2016年。

参考資料：「教育と子ども福祉の探究」当日配布資料

【論文掲載時の注記：●は「インターネットで閲覧可能」を意味する。○は「図書」を意味する。△は「小説（フィクション）の内容と登場人物」を意味する。千葉雅也『勉強の哲学』に付した○●は「図書」であり，一部「インターネットで閲覧可能」を意味する。以下の当日配布資料は，一切変更していない。】

北海道旭川西高等学校　2021年７月21日（水）　稲井智義（北海道教育大学）

教育と子ども福祉の探究

１．はじめに：探究の時代と教育

⑴　「総合的な探究の時間」：2022年度全面実施（2018年３月改訂）

⑵　藤井聡太棋聖（17歳11か月）「これからも探究心を持って」（2020年７月17日）

⑶　●小玉重夫「新しい教育のキーワードは「市民性」」　　●インターネット閲覧可

「曲がり角にある教育学。その課題を考える」夢ナビ編集部編『夢ナビ』作成年不明。

「高校までの勉強では，「答えを出すこと」が求められると思いますが，大学では，「答えを出すこと」より，「何が問題になっているのかを見つけること」が求められます。ですから，高校時代から，「問題を見つけようとする姿勢」をもってください。そのためには，広く世の中で起きていること，教育問題はもちろんですが，経済問題や外交問題など，いわば「答えの出ない問題」に自分なりに取り組んでみることが大切です。そうした習慣を身につけることで，大学での学びがいっそう価値あるものになると思います。」

※子ども福祉：子どもに特別なケア（世話や配慮）を保障する施設や制度，理念

２．福祉を必要とする子どもがいる学校教育の問題を見つける：朝井リョウの小説から

⑴　『桐島，部活やめるってよ』集英社，2010年２月／集英社文庫，2012年４月。

［野球部高校生の独白］……映画部の男子ふたりも，って，あれ，あいつらは同じクラスにいた気がする。確かいつもふたりでよくわからない映画雑誌かなんか眺めてたっぽいけど，映画部だったんだ，っつうか映画部なんてあったんだ。（朝井2012:182）

⑵　『何者』新潮社，2012年11月／新潮文庫，2015年６月。……大学生の就職活動

⑶　『世界地図の下書き』集英社，2013年７月／集英社文庫，2016年６月。

［５年前から児童養護施設で暮らす小学６年生の淳也］「机もみんなから離されとるし，誰もぼくに近寄ってこん。話しかけてこん。守ってくれる太輔くん［３年前に両親を交通事故で亡くした主人公，同学年別学級］がおらんくなって，もう二年もずっとそのままや。ユーレイでおることがもう，普通になってまった」（朝井2016:350）

「だからな，わかっとった。泉ちゃん［淳也の妹で４年生の麻利の同級生］もきっと変わらんってこと。ぼくらが全校分のランタンを作ったとしても，人をいじめるやつはいじめ続ける。約束とかそんなん，あいつらには関係ないんや」（同:351）

→「セーフティーネットがない」

●朝井リョウ「インタビュー」集英社，2013年。https://lp.shueisha.co.jp/sekaitizu/

3．よりよい学校教育を考える：大空小学校の取り組みと福祉を必要とする子どもから

○木村泰子（元校長）『「みんなの学校」流自ら学ぶ子の育て方』小学館，2016年。

→「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」という「学校の理念」を掲げる大阪市立大空小学校（2006年設立）を2012年度に卒業して，中学生の時に児童養護施設で暮らし始めた高校生カズキが放課後学習指導塾に戻って来た……。

……今のカズキの姿は，地域の人たちが彼を優しく包んでいなかったら，おそらくなかったことでしょう。児童養護施設で，毎年子どもたちにとっているアンケートの中に，「あなたには信じられる人がいますか？」という項目があるのですが，大半の子が「いない」と答える中，カズキは「大空の人」と書いているそうです。まさに地域の方たちがいてくれたからこそ今のカズキがある。特にクボタさんがいてくださったからこそ，今のカズキがあるのだと私は思います。（木村2016:42）

①『みんなの学校』2015年（自主上映。文部科学省特別選定作品）

※『さとにきたらええやん』2016年（自主上映。西成区にあるこどもの里）

②子どもにつける４つの力：

「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」

③たった一つの約束「自分がされていやなことは 人にしない 言わない」とやりなおし

④「自分から　自分らしく　自分の言葉で語る」

●木村泰子「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」明治図書『教育zine』2018年８月20日。https://www.meijitosho.co.jp/eduzine/finc/?id=20180699

⑤「わからないところはどこですか？」，「あなた，どう思う？」

○木村泰子『10年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方』青春出版社，2020年。

※「みなさんはこれについてどう考えますか」小玉重夫『学力幻想』ちくま新書，2013年。

4．おわりに：これからの教育と子ども福祉の探究のために

☞虚構と現実が切り離されていない学校で子ども福祉とともに複数の現実可能性を探る。

△『世界地図の下書き』の高校３年生佐緒里　　○施設出身者への大学奨学金・入試

○旭川育児院（1921年，現児童養護施設）　　※岡山孤児院（1887年）

○旭川隣保会（1924年託児所，1940年母子ホーム，現保育所・母子寮）

●小玉重夫「教育におけるリアルとヴァーチャル」2016年度。

●小玉亮子「【模擬授業】「子ども学で考える」」2020年度。

○菅野仁（1960-2016）『友だち幻想』ちくまプリマー新書，2008年。

○●千葉雅也『勉強の哲学 来たるべきバカのために 増補版』文春文庫，2020年。

（旭川校准教授）